

# 様式10

## 令和2年度 指定管理者の管理運営に関する評価シート

### 1. 指定管理者（施設）の基本情報

施設名	みのお市民活動センター
指定管理者	特定非営利活動法人市民活動フォーラムみのお
指定期間	令和2年4月1日～令和7年3月31日
施設概要	非営利公益市民活動の促進を目的とする施設。会議用施設や活動用施設を市民等の利用に供し、市民活動促進のための各種事業を実施
市支出額	指定管理委託料…31,185,104円（うち2,500,000円は支援金原資） キューズモール施設借上料…25,396,261円 キューズモール施設共益費…5,079,254円

### 2. 事業の実施状況

情報収集及び提供に関すること	ホームページの管理・運営（随時）、ニュースレターの発行（年2回）、グループガイドの発行（隔年 ※令和2年度は発行なしの年度）
講座の開催、その他啓発に関すること	NPOフェスタ（年1回）、講座（年5回）
相談に関すること	各種専門家相談（令和2年度中止）、一般相談（随時）
交流の促進に関すること	利用者協議会（令和2年度中止）、ほんぽんファミリーひろば（月1回※うち3回中止）、マンスリー多文化サロン（月1回※4月～9月中止）、世界の文化を知ろう！（年3回※うち2回中止）
調査・研究事業	公共的空間の活用
支援に関すること	市民活動支援金募集・審査・交付、報告会の実施（各年1回）、交付後のサポート等
場所及び施設の提供に関すること及びセンター施設の利用に関すること	開館時間：午前9時～午後10時 休館日：12月29日～1月3日
その他施設を活用した市民サービス等	証明書発行業務（火曜～日曜日、年間647件発行）、期日前投票所会場提供（6日間）
情報収集・提供（自主事業）	メールニュース（月2回程度）、ホームページの管理・運営（随時）、ボランティア情報サイト管理・運営（月1回更新）
団体の運営・活動に関する連絡、相談、啓発、支援（自主事業）	講座（年1回）、活動・情報の交流会等の支援（まんどろ祭り等 ※令和2年度は祭り開催中止）
市民活動に関する人材育成（自主事業）	ボランティア・実習生受入、NPO広報サポーターpromo（令和2年度は受入なし）、高校啓発事業（週1回程度）等
市民活動を促進するための社会的な環境の整備（自主事業）	団体との連携（実行委員会等参画）、ネットワーク構築（「もっとネット会議」等）
その他の自主事業	来館啓発（ほっとコンサート：年1回、おさがり服の交換会：年2回）、中間支援組織の研修、震災復興支援活動、防災イベント（年1回）、北摂NPO・SB支援のための緊急補助金プロジェクト等

### 3. 利用者の満足度

#### （1）利用者アンケートの状況

アンケートの結果概要	施設・備品面、運営面ともに「不満足」は稀であり、「満足」または「やや満足」がほとんどである。感染防止対策についても概ねは満足いただけている様子である。
------------	---

## (2) 利用者等の意見交換会の状況

意見交換会の結果概要	コロナ禍でレイアウト等を変更しているフレキシブルコーナーの使い方について意見があった。また令和3年度に実施した動画企画講座を評価する意見が複数あった。一部、施設予約システムの使い勝手や駐車場の料金のことなど、指定管理者として対応が難しいことへの意見もあった。
------------	---

## (3) 利用者からの意見を反映させる取り組み

取り組みの実施状況	日常、受付窓口で意見を伺い、また利用報告書のご意見欄に目を通すなどしており、何かあればスタッフ内で共有し対策を検討している。
-----------	--

## 4. 収支状況

令和2年度（2020年度）、指定管理者である法人全体としては経常収益34,109,895円に対し経常費用31,848,830となった。利用料金収入の減少もあったが、コロナ禍により計画していたイベント等の事業の中止や変更、次年度以降への延期等の減少がそれ以上に多くなった。税引後の当期正味財産増加額は2,061,765円となり、次年度以降のNPO支援活動のために繰り越した。

## 5. 特別提案の状況

(なし)

## 6. 指定管理者の自己評価

令和2年度（2020年度）は指定管理者第4期の最初の年度であり、かやのさんぺい橋を活用した事業を新規に開始することを予定していたが、コロナ禍により、当初計画していたイベントは中止を余儀なくされ、年間を通じて事業計画の変更を余儀なくされた。施設管理面でも、経験したことのない長期にわたる臨時休館や開館時間の短縮があり、日々の換気・消毒作業や利用者への説明等、対応に追われた1年となった。結果、貸館事業や印刷機等付属設備の利用者は例年に比べ大きく落ち込んでしまった。感染拡大を受けた施設の運用に関しては、やむを得ず急な連絡となってしまったり利用者にご迷惑をおかけすることもあったが、アンケートでは感染防止対策に不満の回答はほとんどなく、事情をご理解いただけているものと感謝している。感染拡大防止のために、多くのことがこれまでと同様にはできなかったが、その中でできるかたちを探り、またこの困難を乗り越えるために助けになることを探し取り組んだ。具体的には、臨時休館中にも電話やメールでの相談を継続し、熊本県等で発生した豪雨災害に対しコロナ禍でボランティアが現地に入りにくい中、救援物資を送る活動に協力した。また感染拡大防止に配慮した形で「ぼんぼんファミリーひろば」を6月に再開し、「みのおNPOフェスタ2020」は換気のよい屋外会場のみとし、出展内容等をリスクの少ないものに限定することで開催した。また、かやのさんぺい橋の活用についても、一時にたくさんの方が集まる形ではなく一定の期間に時間差で人が参加する形態の「おえかきボード」設置の社会実験を行った。講座でも、11月に当センターとしては初めてオンラインを併用した講座を開催し、12月にはオンラインの場づくり講座を実施、自主事業での講座を合わせて年間5回の講座をオンラインを活用して開催した。フレキシブルコーナーが従来通りの使い方になっていないこと、イベントの開催が難しくなっていることなど、利用者の要望に答えられていないところはあるものの、コロナ禍の中でもできる形を探ること、またその中でも活動を継続しようとする方の応援を行うこと、は一定できたものと評価する。